滋賀県立聾話学校初代校長　西川吉之助の最期

辻　久孝
日本聾史学会
社団法人滋賀県ろうあ協会

あらまし：西川吉之助の最期については、諸説があるが、何故死を急いだかを自分なりに分析してみた。

１、はじめに

昨年の兵庫大会において、西川吉之助の生涯についてレポートを発表したが、今回は西川吉之助の最期について発表するにあたって、抵抗感を抱くと思われる方が多かろう。しかし、これがろう教育史上重要ではないかと思い、レポート発表することにした。

晩年の西川吉之助

２、没後３１年後に初めて真相を明かすことの衝撃

西川吉之助は、昭和１５年７月１８日午前２時３０分、逝去した。享年６７歳であった。西川吉之助は自らの手で生涯を閉じたということであった。

３１年後の昭和４６年になって、校医の東田一夫は「創立四十年誌」（滋賀県立聾話学校）に当時のことを次のように記し、初めて真相を明かした。

「想い出　東田一夫

（上略）先生の死の直前には肝臓を病まれ暫らく療養して居られたが病死ではなかったのである。もう時効になって居るので奥様と私より知らない死因をここに告白して、偉大な先駆者の苦難の道を偲ぶものである。（本校校医）」

死因については永いこと妻と東田医師の二人だけの胸にたたみこまれたといえよう。口話教育のために格闘を続けた末、家財もわが身も投げ出した西川吉之助の悲劇的な最期に、良心者として何も言えない気持ちであろう。

３、ろう高齢者からの証言について

西川吉之助に直接関わっていた、数人のろう高齢者に取材してきた。そのうちの一人から西川吉之助の最期について衝撃な証言があった。

その証言の中から、一部次のように紹介する。

★ 西川校長先生が昭和１５年７月に急死されたときのあなたの気持ちをお聞かせください。

本当に驚きました。朝２時頃に急死されたそうです。その日の朝４時頃に先生が慌てて寄宿舎の方へ走ってきて何か連絡しようとしていました。私たちが部屋の窓を開けたままで寝ていたのを、開いたままの窓から蚊帳の方へ小石を何個も投げ入れて起こそうとしていたそうです。たまたま目が覚めて小石が落ちていたのを見て、不審に思い窓の方を見やったら、先生が「戸を開けろ」と呼びかけていました。戸を開けて大きな声で叫んだのですが、先生方は驚いた表情をしてはや学校の方へ走っていってしまいました。何があったか全然わからなくてそのまま待っていました。先生方も保護者会（現在のＰＴＡ）役員の方も学校に駆けつけて相談事をしたようでした。後で登校しようとしたら

先生に「今日は学校を休む。寄宿舎へ戻れ」と言われ、寄宿舎へ戻った。たまたま来ていた保護者会会長の子どもから、西川校長先生が亡くなられたことを知らされました。

校長先生が亡くなられる前日に不審な行動をしたのを目撃しました。上身体裸でタオルを頭の上に被ったまま聾話学校や寄宿舎の周りをふらりと歩いていらしたのを見たのです。そのようなことをする校長先生ではないので、不思議に思いました。校長先生が亡くなられたとの知らせをきいて本当にびっくりしました。

西川校長先生との最後のふれあいは、その１ヶ月ほど前の６月に、京都府の天ヶ橋立方面へ連れて頂いたことでした。そのことを思い出すと悲しいです。

４、何故死を急いだかについての分析と考察

私も、このような西川吉之助の悲劇的な最期に衝撃を受けた。なぜこうして自らの手で生涯を閉じたか(縊死)、疑問に感じたので、背景も含めて詳しく調べてきた。仮説を立てて考察したい。

西川吉之助はクリスチャンであることで知られていることから、自らの手で生涯を閉じたということは理解しがたい。

１９８０年（昭和５５年）に日本特殊教育学会第１８回大会が滋賀大学教育学部で行われた。これに先立って地元でのプレシンポジウム「西川吉之助・はま子氏の業績の今日的評価」―滋賀県の障害児教育の遺産をさぐる―を行い、シンポジストの先生方に加筆校正していただいた、「西川吉之助・はま子氏の業績の今日的評価」(発行日　１９８１年２月１日、編集　滋賀大学教育学部特殊教育研究室・滋賀県立聾話学校研究部、発行　滋賀大学教育学部特殊教育研究室）という資料を手に入れた。これ以外の複数の文献も調べてきた。

西川吉之助の最期の前後の状況を次のとおり紹介する。

１９３９年（昭和１４年）に、娘の西川はま子が手話法推進校でもある大阪市立聾学校へ勤めたい意思を表明し、高橋潔校長を訪問して採用してほしいとお願いした。だが、高橋校長が西川吉之助の立場を考慮して断ったといわれる。そのことを知ってしまった西川吉之助がショックを受けてこうなってしまった(縊死)という説がある。

だが、この説を西川吉之助の死につながることに疑問を感じた。先に述べたように、西川吉之助はクリスチャンだからである。

西川吉之助は、同年８月、重度の神経性黄疸を病み、一時は危篤状態に陥った後小康状態だったが、気力が著しく低下したという記録もある。

もう１つ、前項で紹介した証言の中から西川吉之助が急死した前日に不審な行動をしたのを目撃されたことに注目したい。

私の仮説であるが、病苦から自殺に走ってしまったと推測している。つまり、病苦から解放されたいために、あるいは死期の近さを悟ったために自殺したと推測していることである。もちろん、あくまでも個人的な仮説である。

私は、医学的なことに詳しくないし、勉強不足でもあるので、医者など専門家の意見も仰ぎながら、死因を究めていきたい。